

◆ 今週のコメント

- ・ A型肝炎の報告が1例(男性, 70歳代)あります。症状は全身倦怠感・黄疸・肝機能異常です。推定感染地域は国外(エチオピア)で、推定感染経路は経口感染です。本年初めての報告となっています。
- ・ 麻しん(検査診断例)の報告が1例(男性, 20歳代)あり、本年初めての報告となっています。推定感染地域は国内で、麻しん患者との接触があり、遺伝子型はB3型です。
本年の全国の累積報告数は83例あり、京都府 20例、千葉県 10例、神奈川県及び愛知県 8例の順で多くなっています。また、麻しんウイルスの遺伝子型別においては、B3型、D8型、D9型といった海外由来型のみです。現在、フィリピンで麻しんが疑われる患者報告が増加していますので、麻しんの流行がみられる地域へ渡航される方は十分注意してください。
麻しん排除に向けて、感染拡大防止及び流行状況の把握を迅速に行うことが重要であることから、医療機関におかれましては、麻しんを診断された場合には速やかに所轄の保健センターに届出いただきますようお願い致します。

◆ 今週のトピックス: <インフルエンザ>

京都市のインフルエンザの定点当たり報告数は、28.50(1,938例)で、京都市、全国ともに前週より減少しています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 四類: A型肝炎 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- ・ 五類: アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 3例】
- ・ 五類: 侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 5例】
- ・ 五類: 梅毒(早期顕症・Ⅱ期) 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- ・ 五類: 麻しん(検査診断例) 1例【1月以降の累積報告数 1例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	28.50	1938
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	6.07	249
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.00	41
	③ 水痘	0.54	22
	④ 突発性発しん	0.34	14
	⑤ RSウイルス感染症	0.17	7
眼科	流行性角結膜炎	0.70	7

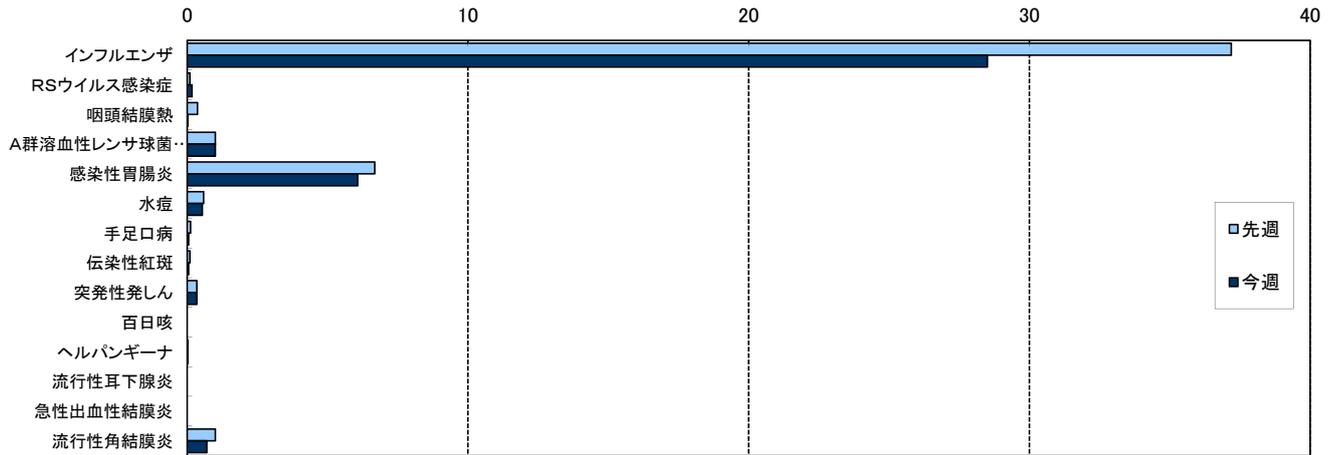
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <インフルエンザ>

(注) 京都市のデータは、平成26年2月13日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

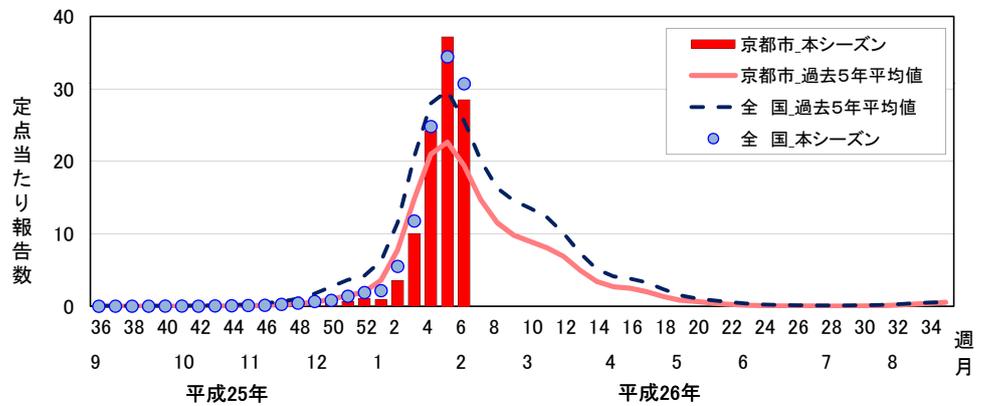
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第6週)と先週(第5週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第2週	243
第3週	683
第4週	1646
第5週	2529
第6週	1938
累積報告数 (第36週以降)	7318

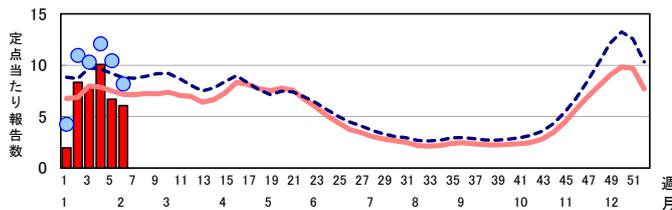


※平成21年/22年シーズンは、例年と流行傾向が大きく異なるため、過去5年平均値の算出には使用していません。

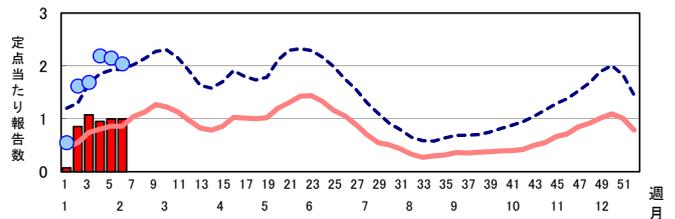
3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

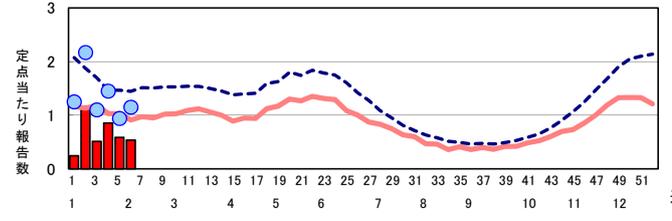
1 感染性胃腸炎



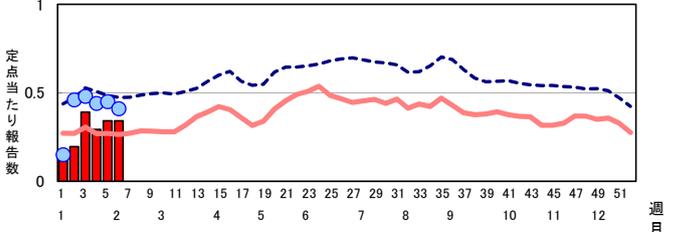
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



3 水痘

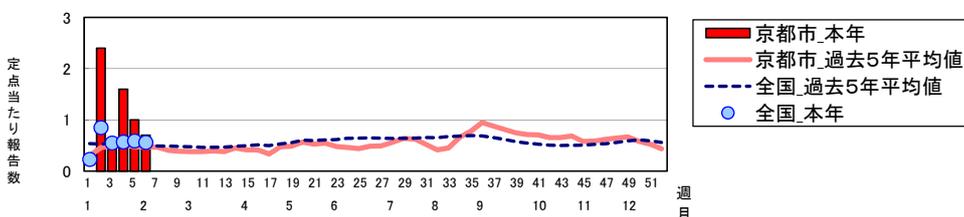


4 突発性発しん



<眼科定点>

流行性角結膜炎



第6週(2月3日～2月9日)トピックス: <インフルエンザ>

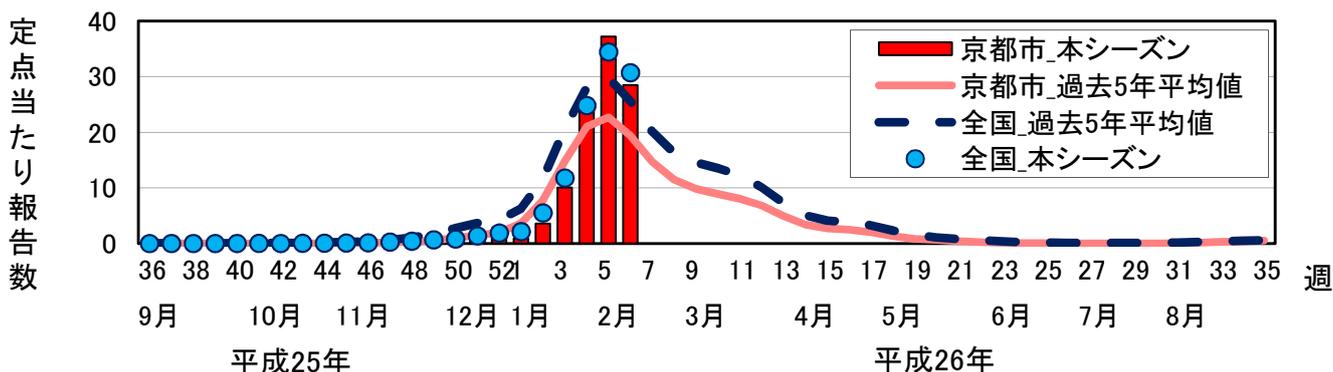
京都市のインフルエンザの定点当たり報告数は、28.50(1,938例)で、京都市、全国ともに前週より減少しています。

行政区別にみると、左京区を除く10行政区で前週よりも減少していますが、依然として、3行政区(左京区、南区、西京区)において、警報レベルの「30」を上回っています。今後の動向にご注意ください。

京都市衛生環境研究所では、今シーズンに、AH1pdm09が18例、AH3型が2例、B型が13例、分離・検出されています。

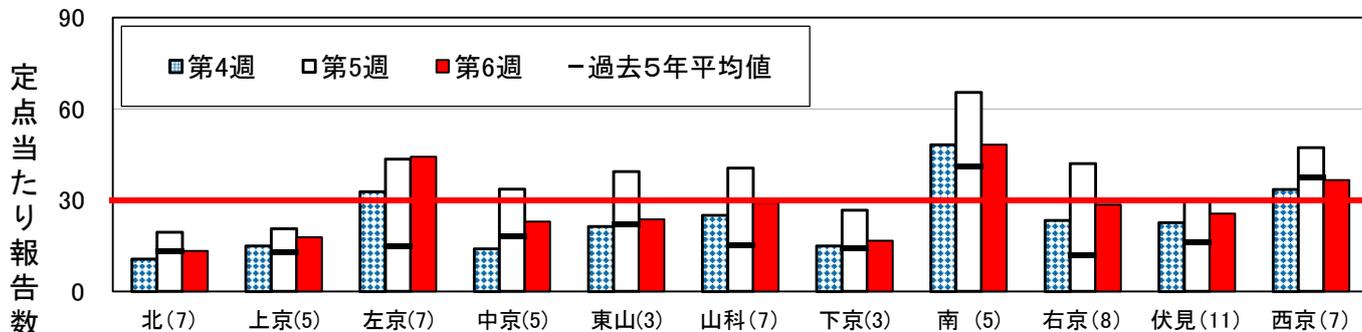
なお、全国のインフルエンザウイルス分離・検出報告数は、AH1pdm09 882例(41.8%)、AH3型 705例(33.4%)、B型 521例(24.7%)となっており、今シーズンは前シーズン、前々シーズンにはほとんど分離・検出されていなかったAH1pdm09が最も多く分離・検出されています。(平成26年2月14日現在)

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



* 平成21年/22年シーズンは、インフルエンザ(H1N1)2009の影響で、例年と流行傾向が大きく異なるため、過去5年平均値の算出には使用していません。

本市の行政区別定点当たり報告数の推移



()内は行政区別のインフルエンザ定点医療機関数

* 平成21年/22年シーズンは、インフルエンザ(H1N1)2009の影響で、例年と流行傾向が大きく異なるため、過去5年平均値の算出には使用していません。

シーズン別インフルエンザウイルス分離・検出状況(京都市及び全国)

